

# 泉州国際市民マラソン 第9回大会 2002年(平成14年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 9th CONVENTIONS



前回変更された新コースは、おおむね評判がよく、33km 過ぎてからの二つの橋を越える“心臓破りの陸橋”で真価が問われる魅力的？なコースである。フィニッシュ間近で熾烈な争いが繰り広げられ、スタミナ切れでの上り下りはタフネスなマラソンコースであるといえる。

今回の招待選手の中で注目されたのは、シドニーオリンピック代表の川嶋伸次(旭化成)と、99年以来2度目の谷川真理(アミノバイタル)らで、海外姉妹都市からの招待、全国の市民マラソンの優勝者らがしのぎを削った。恒例となった岸和田市内でのだんじり囃子の応援が、今年も3000人のランナーを元気づけた。

男子は福原博充(大塚製薬)が終始先頭を走っていた植松翼(山陽特殊製鋼)を42kmキロ地点でとらえ、ゴール寸前で大逆転する結果となった。期待された川嶋は40kmまで先行したが3位に終わった。

女子は先行する谷川真理をとらえた吉備路マラソ

2月17日 日

天 候: 曇り  
気 温: 11℃  
参加者数: 2,987人  
完走者数: 2,334人  
沿道人数: 39万人



ン招待の松本晴美がフィニッシュ前のデッドヒートを制し、11秒の差をつけて逆転優勝した。松本はレース途中2度のロスタイムを挽回しての優勝であった。

また、後半の小雨について、今回で277回目のフルマラソン完走となる山田敬蔵(74歳)は3時間32分28秒で快走し、名実ともに“鉄人ランナー”として元気なところを見せた。第1回から“皆勤賞”の高石ともやも、還暦祝いの激走を披露した。

第7回大会より、ニューサマラソンがハーフマラソンとなったため、クイーンズランド州の「ゴールドコーストマラソン」との友好マラソン提携が行われていたが、この年、陸上競技協会レベルでの提携調印が交わされた。



大会前日のレセプションで招待選手が勢揃い



レース開始前、ファンファーレを奏でる高石市民音楽団

